

# 高齢者と障害者 枠超えた生活

美濃「デイサービスにじむすび」が共生型に

施設は介護事業の「にじむすび」が2021年にオープン。「誰もが自らいたい」をテーマに木目調の



利用者でにぎわう施設内  
＝美濃市大矢田のデイサービスにじむすびで

## 駄菓子店設置で世代間交流も

落ち着いた内装や最新のリハビリテーション機器をそろえ、累計120人以上の高齢者が利用してきた。同社は元々、岐阜市や東京都で障害福祉の訪問介護や看護の事業を展開。一方で美濃市内の障害者向けサービスは限られ、障害者が高齢化した際の受け皿は整っていなかった。渡辺暁典社長(50)は「65歳になって障害者福祉から介護保険のサービスに切り替わり、慣れ親しんだ施設を移る必要



がある場合もある」と危機感を持ち、夏から県への申請を準備してきた。渡辺社長は「職員が障害者も高齢者も幅広く対応できるようにしなければ」と人材育成にも力を込める。施設の介護職員で親族に障害のある子を持つ川崎礼子さんは「高齢者の利用者は世代的に障害者に慣れていないかもしれない。お互いに理解できるようにサポートしたい」と意気込みを語る。11月には施設の一角に駄菓子店を設置。土曜日みの営業で、地元の子供らでにぎわうという。レジ係は施設を利用する高齢者らが担い、世代間交流も狙う。渡辺社長は「全世代が顔を合わせる場にしたい。体の動く障害者が動きにくい高齢者を助けたり、知識や経験のある高齢者が障害者を導いたり、協力して共生していく姿を見られたら」と描く。☎にじむすび0575(33)0035

## 可児駅周辺 防犯カメラ6台



防犯カメラの映像を確認する高木署長(左から2人目)と富田市長(左から1人目)。設置された防犯カメラは、いずれもJR可児駅前

治安の悪化が問題になっていたJR可児駅と名鉄新可児駅の周辺に、可児市が防犯カメラを設置した。人

## 市が設置 非行や犯罪抑止期待

や車の動きを常時録画し、非行や犯罪の抑止につなげる。現在は試験稼働中で、今後は本格運用に移る。

設置したカメラはロータリーに5台、駅南側の公園に1台。いずれもネットワークに接続している。法令に基づき捜査機関の要請があったり、緊急事態が起きたりした場合、リアルタイムで映像を確認できる。駅周辺では近年、少年らによるバイクの暴走などの迷惑、不法行為が顕在化。一帯の施設を管理する市は対策として、主要駅や公園に防犯カメラ計18台を設置すると決めた。5年間で約1200万円を投じる。

非行抑止の巡回や啓発をしてきた市や市議会、可児署、自治会の関係者らが4日、現地を確認した。富田成輝市長は、居場所を求める若者が駅前やつて来ること自体は問題ないと強調。「この町の平穏や安全を脅かすような行動をとる人も来ている。それは絶対に許せない」と述べ、抑止効果に期待した。可児署の高木晃署長は、少年や外国人らの密集、パ

## 「ロイヤル劇場の夢」7日に特別上映会

岐阜の同劇場



「ロイヤル劇場の夢」の特別上映への来場を呼びかける大野さん(左)と岐阜市日ノ出町で

岐阜市・柳ヶ瀬商店街で35フィルム映画を毎日上映する全国唯一の映画館「ロイヤル劇場」で、同劇場を舞台にした映画「ロイヤル劇場の夢」が7日に特別上映される。地域映画の製作に取り組む大野達也監督(41)は「各務原市」が昨夏、俳優の加藤雅也さんと知り合い、出演の快諾を受けて製作。同劇場を舞台に、加藤さんが男性客、岐阜市出身の俳優木梨奈さんが映画館主の娘を演じる会話劇で、今年1

月の「各務原映画祭」で初公開された。劇中には客席全体が映る場面があるといい、大野監督は「映像と実際の客席が一体となるような不思議な感覚があった」と、劇場で見る魅力を語る。「中学生の頃から足しげく通ったロイヤル劇場への恩返しだと思っ作った映画。かつてのような活気を取り戻せなくても、みなさんの記憶に刻まれればうれしい」と来場を呼びかけた。午後6時半開場、7時開

## 陶芸家林正太郎さん個展

28日まで多治見 富士の酒器展示販売



えている。シンビジウムは、同校園芸科学科の生徒らが授業の一環で管理。一生懸命育てた赤や黄、ピンク、白色などのシンビジウムは、7日に校内で実施される即売会などで購入できる。今年出荷するのは、7品目、約1700鉢。複数の大ぶりの花を付けるシンビジウムは、品種によって色や花の付き方が変わる。寒さに強く、涼しい環境だと鮮やかな花が約2カ月間長持ちするため、年末年始の贈答品として人気がある。3年をかけた生徒らが管花のつぎを良暑い時期にはわれる高地にうなど、丹精出荷の際は

重要無形文化財「志野」の保持者で陶芸家の林正太郎さん(77)は土岐市の個展が、多治見市本町の美濃陶芸の店「井筒」で開かれている。富士山の絵柄が入った酒器約40点を展示販売する。28日まで。同店は林正太郎さんの作品を販売する直営店。年に2回、6月につば、12月に酒器と、それぞれ作品を変えて個展を開いている。今展では、国内外で人気の富士山を題材とし、林さんが1年かけて制作した志野や織部、万葉彩のぐいのみを中心に展示。白や赤で彩られた富士山の絵柄は立体的に盛り上がり、存在感は際立っている。同店の佐藤隆夫社長(64)は「この機会に手触りや風合いをぜひ感じてほしい」と

「と話を」午前10時、同店056933

◇タオルを十字奉仕団は、枚を市社会福祉した。奉仕団の員長らが11月の市福祉会館の会長に目録を